

チームけせんの和 だより

2022
vol.34
8月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字太田56（〒512-2） TEL 0192-54-3221 FAX 0192-55-5241

「会長挨拶」



陸前高田市国民健康保険二又診療所 所長 岩井 直路

人生は不思議なものだ。陸前高田を去ってから、たった1年で陸前高田に“帰って”来たのだから。いくつかの出来事・条件が重ならなければ戻ってくることはなかったが、巡り合わせとは本当に不思議なものだ。ただ、私が陸前高田で過ごした3年間の、医師として充実した日々、市民との触れ合い、チームけせんの和の皆さんとの温かな交流、「劇団ばばば」活動を通しての忘れえぬ思い出・連帯感がなければ、戻ってくることはなかっただろう。この場を借りて皆さんに感謝したい。

今回戻ってきたのは、山間部の二又診療所だ。広田診療所にいる時に、二又診療所のことも半分理解しているつもりだったが、どうも浅はかだったようだ。陸前高田全体のことをもっと知らなければならないと思うようになった。厳しい環境の中、住民が今までどのように命を繋いできたのか、医療の体制はどうだったのか、刻まれた歩み・歴史を知るとは、今後の活動のためにも必要なことだ。

まだコロナ禍であり、皆さんと気兼ねなく語り合う機会が少ないが、ウィズ・コロナ体制ではあっても皆さんと「はまかだ」ができるようにしたいものだ。縁あって、再びチームけせんの和の会長を務めることになった。一人の力は小さいが、皆さんと力を合わせれば、より良いものが生まれて来るだろう。どうぞよろしくお願いします！

1年ぶりに陸前高田市に戻り、今度は市街に居住し、市民が買い物している姿を見ると、東日本大震災から11年、市民の生活もある程度落ち着いてきたように感じる。しかし見えにくい問題も含め、課題は山積みだろう。日本全体のことでもあるが、ものすごい勢いで人口減少が進んでいる。これからの医療介護、在宅療養をどう支えていくべきかなど、陸前高田市における地域格差も含めて検討していかななくてはならない。

まずは健康第一。健康寿命を延ばして市民は「元気に長生き」、チームけせんの和の皆さんは「元気に仕事」ができるよう、自分自身の健康管理も怠らないで欲しい。

陸前高田市は昭和30年に誕生。私も同じ年に誕生した。なんか不思議な縁を感じているが、私自身も健康に留意して、皆さんと一緒に良い活動ができるようにしたい。最後に、二又診療所の基本理念を紹介し筆を置く。

ふれあい つながり、たのしく 健康、まごころこめて あなたの、たいせつな人生を支える おらほの診療所。



山が連なり、生出川と中平川が流れ、合流して矢作川になる様子を表し、いつも皆さんと共に診療所があることを with you でさりげなく表現

＜基本理念＞

“ふ” れあい つながり
“た” のしく 健康
“ま” ごころこめて あなたの
“た” いせつな人生 支える
おらほの診療所

「チームけせんの和」に寄せて

岩手県立高田病院 診療放射線技師長 福浦 嘉浩

本年4月より県立高田病院で勤務しております、診療放射線技師長の福浦嘉浩です。

出身地は、同じ沿岸の山田町です。

2011年3月11日は、私は単身赴任で北上にある中部病院で勤務しておりました。検査中であった私は、経験したことない大きな揺れのなか、患者さんを検査室から退避させることで精一杯でした。家族とは連絡が取れず、テレビでも私の地元の情報は皆無でした。なんとかラジオの情報で山田町までのルートを確認して、私が被災地山田町に向かったのは2日後のことでした。山道から山道のルートで山田町に向かったので途中で沿岸の市街地を見ることなく山田町に入りました。

ごく普通に木漏れ日が差す舗装された山道を軽快に走行していて、あるカーブを曲がった瞬間に、別世界が広がっていました。建物はなく、道路にもいろんなものが散乱して、遠くの方では砂埃が舞っていました。それでも空が青かったのを覚えています。幸い家族や自宅は無事でした。

あれから、11年が経ち同じ被災地の陸前高田市に赴任することになりました。

「チームけせんの和」の一員として、私のできることは限られていますが、みなさんのお力添えで活動に協力していきたいと思っています。人とのコミュニケーションを大切に、患者さんだけにとどまらず、市民の方と会話を楽しみたいと思っています。なかなか気仙言葉が分かりづらく、年配の方の話を何度も聞き返すことがありますが、方言も理解するように努めたいと思います。

私は体を動かすことが好きなので、仕事終わりによく市内をジョギングしています。

頭にタオルを巻いて、リュックを背負って走っていますので、病院内だけではなく市内で見かけたら声をかけてください。

医療への貢献だけでなく、地域にも何かしら貢献できればと思っています。何かの活動のお手伝いや力仕事がありましたら、ぜひお声がけください。

今後ともよろしくお願いいたします。



♡新企画(仮名)「フレッシュさん」紹介コーナーを設けました♡

「チームけせんの和」の会員事業所のスタッフ様で陸前高田が転勤や転職ではじめての方、陸前高田に居ながらにして新規の新しい職場に入られた方に登場していただくコーナーです。コロナ禍でなかなか対面がかなわない状況ですので、誌上で親睦を深めましょう！！

自薦他薦でスタッフ様のご紹介をよろしくお願いいたします！！

尚、まだこのコーナーの名前はついていませんので、皆様から募集したいと思います。コーナーの名前、スタッフ様のご紹介共にお願いします。

陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

在宅医療介護連携センター「みんなの相談室」内

TEL/FAX：0192-22-7366

メール：soudan1@alto.ocn.ne.jp

Q & A

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ① 出身地 | ② 大事にしているもの |
| ③ 好きな食べ物 | ④ 休みの時の過ごし方 |
| ⑤ 陸前高田市の好きな所 | ⑥ ご自身のアピール、チャームポイントなど |



医療法人 勝久会 介護老人保健施設
松原苑 言語聴覚士 金野 由美子

- ① 陸前高田市。震災で自宅は全壊しましたが再び陸前高田市に家建てて、今は夫婦二人で静かに暮らしています。長く大船渡病院で働いていたので見かけたことのある方もいらっしゃるかもしれません。改めましてよろしくお願いいたします。
- ② どちらかというと目に見えるものより、目に見えないものを大事にしているような気がします。様々な力に守られて今があると強く感じます。
- ③ スイーツ全般です。おいしいスイーツには目がないです。
- ④ 夫と近くのスーパーに出かけて、おいしそうなスイーツを見つけるとついつい手にとってかごに入れてしまい、おかげで痩せる暇がありません。
- ⑤ 海があること、おだやかな気候、慣れ親しんだ空気です。年齢的にはブルーな年頃ですが、気持ちだけでも若くありたいと願っています。
- ⑥ 地元で言語聴覚士として働けることに感謝しつつ、少しでも皆さんのお役に立てるよう日々努力してまいります。ことばやコミュニケーションに問題を抱えている方々と一緒に楽しめることをいろいろ見つけていきたいです。



社会福祉協議会
地域支援コーディネーター
黄川田 正洋

- ① 陸前高田市
- ② 仲間
- ③ ごはん（米の水含む）
- ④ ぐだぐだしてるのがほとんどで、たまに釣り、畑仕事。
- ⑤ 人情がある人が多いところ
- ⑥ はい、フレッシュさんの取材記事！この原稿書いてと上司に言われ「はい」と言う素直な気持ちを持っている65歳のフレッシュさんです。



特別養護老人ホーム
高寿園
介護員 櫻井 美南海

- ① 陸前高田市気仙町長部
- ② 自分に関わりのある方、人、友達
- ③ 家のハンバーグ、美味しい！
- ④ 家にいる（アハハ！）
- ⑤ 人が、やさしいところ
- ⑥ いろいろな人と仲良くなれること

チームけせんの和活動報告

令和4年7月21日(木)

令和4年度 第1回研修会(オンライン研修会 53名参加)

テーマ 「通所・訪問リハビリテーションにおける取り組み」

講師 ロッツ株式会社

訪問リハビリテーションさんぽ

課長 / 理学療法士 中村 邦人先生



今回の研修会では、リハビリと利用者さんの「在宅・社会生活への復帰」について中村邦人先生からご講演をいただきました。

先生は、東日本大震災の年に国家資格を取得し、リハビリテーション専門職として病院・施設等で従事されその後、ロッツ株式会社へ入職されました。

講話を通じて通所・訪問リハビリの目的と定義について教えていただきました。普段リハビリを通して利用者さんの「在宅・社会生活への復帰」を支援しているが、自宅や地域で出来ることは十分にあるのに、「年だから」、「病気だから」、「家族に心配かけるから」と諦めてしまう。その思いに変化をもたらすため、生活内の「ちょっとした工夫や調整」キッカケ作りのコーディネーターでもあると思っている。もちろん、リハビリをしたからと言ってすべてを良くすることはできず、改善が期待される場合は改善を。損失してしまった場合は受容と代用を。このような思考・提案力も支援者として大事な要素となり、「変化の見える化が今後の目標に繋がり重要であり、病気や障害者への不安感の軽減にもつながる」と強調されました。

また、リハビリ専門職を含めたサービス提供者も利用者さんを取り囲む環境因子の一部である事を踏まえ、支援者が協働してリハビリ側に求めることがあればいつでも相談するよう話され、「生活・社会・地域」への復帰及び参画へのキッカケ作りを行うことで、医療・介護における多職種連携に繋がると教えていただきました。そして今後も皆様と協働し、この気仙地域でひとりでも多くの方が健康に過ごすことができる地域作りをめざして行きたい！と力強い決心が伺え、改めて多職種の連携の重要性を再確認することができました。

自立支援事例を映像での紹介と、現代に遭遇したデジタル化(スマホ・タブレット)についても示唆され、聴講者の方々が共感されておりました。

リハビリ視点での近年のトピックス

▶ 高齢者へのスマホタブレット普及

- ⇒ 趣味・興味関心の助長ツールとして。
- ⇒ 子・孫との連絡ツールとして(テレビ電話が有用性大)
- ⇒ YouTubeなど視覚・聴覚的刺激から意欲・活発的に。
- ⇒ コミュニケーション補助(難聴者)
- ⇒ 訓練ツール(認知症、高次脳機能障がい)



お忙しいところ会場に来てくださった皆様、オンライン参加の皆様、研修会に参加していただき感謝申し上げます。



地域包括コーディネーターってなあに!?

- いつもお世話になっております。
どうぞよろしくお願いいたします。
- ① 何人ですか? : 4人
 - ② スタッフの年代は? : 50代 2人 60代 2人
 - ③ いつもどこで働いているの? : 在宅医療介護連携センターの設置されている
市民交流プラザ内
(下和野団地・中田団地 相談室)
 - ④ どんな仕事をしているの? : ・地域住民を対象にした相談窓口
・在宅医療介護従事者の相談窓口
・地域包括支援センターの職員や、医療・福祉・保健・介護の専門職種と連携し
相談事に対する問題解決に向けての調整、支援を行う。



編集後記

今年度最初の「チームけせんの和」だより vol.34 をお読みいただきありがとうございます。
新コーナー(仮名)「フレッシュさん」はいかがでしたか? 会員の皆さん、「フレッシュさん」にお会いした時には「チームけせんの和」で見たよと、声をかけてみましょう😊
(つながりが増えますように※)

ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。